POTT 研修会だより　３

日本食看護研究会　第２回研究会　（東京都）

日時　2016 年3月 19 日 10時～16 時 00 分
場所　東京女子医科大学看護学部　（東京都）
内容　POTT プログラムの伝承
参加者　　50 名
プログラム　ポスター参照

午前中は講演、午後はポジショニングを食事介助の演習でした。看護実習室へベッドと車いすや枕などがしっかりと整えられていました。足底接用用シート（フラップ付きカバー）も準備されており、同じ条件で演習ができました。昼休みにポジショニングの自己チェックをして開始。７台のベッドへ１グループ４人で、患者役、看護師役を体験しながら進めました。

日本食看護研究会
Japanese Society of Nursing and Human Nutrition

日本食看護研究会は、食生活の質、生きる力、豊かな生活、QOLの向上のために、人の食に関連した保健・医療・福祉の領域における実践と研究、知識の普及、情報の発信を行い、もって「よりよく生きる」ことを支えることに寄与することを設立の目的とし、2015 年 3 月 8 日に発足しました。

日本食看護研究会理事長　尾岸　恵三子

日本食看護研究会　第 2 回研究会のご案内（第 2 報）

＜食べることへの積極的支援＞

食べることは、ごく日常的な行為です。しかし、この日常性に不都合が生じることもまたよくある現象です。本研究会では、この日常的行為に不都合を生じたとき、それを乗り越える技にについて研究されている迫田綾子先生、また、地域で実践されている田中靖代先生からのご提案をいただき、実践を通して人々の豊かな食生活に反映し、日常抱えている問題の発見と、より良い技の確立に向け更に研究を進める参加型研究会です。

日時　平成 28 年 3 月 21 日（月・祝日）　10 時～16 時

場所　東京女子医科大学看護学部　第 1 校舎

プログラム　1　講演

講師：迫田綾子氏　食事時のポジショニングの意味

講師：田中靖代氏　暮らしの中で行う摂食嚥下訓練

プログラム　2　演習　（参加者は事前に申し込み下さい）

指導：迫田綾子氏　POTT（ポット）プログラムの伝承

指導：田中靖代氏　摂食嚥下訓練の伝承

講演のあと演習を行います。演習は 50 名まで参加できます。
演習参加申し込みは先着順となりますが、漏れた場合でも見学は可能です。
参加費：講演の聴講の方は3000円。演習に参加し体験する方は5000円（含む、材料費および資料費）。暮らしに役立てましょう。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

問い合わせ：メール　shokukangokenkyukai@gmail.com
申し込み：氏名　所属　連絡先、及び演習参加の有無を必ず記載してください。
郵送の場合は、〒162-0054 新宿区河田町8－1東京女子医科大学看護学部　柳修平　まで
会場アクセス：最寄り駅　都営地下鉄大江戸線　牛込柳町もしくは若松河田　都営地下鉄新宿線　曙橋

＜ポイント＞

- 最初にベッド上での寝姿勢を正中に整える。ベッドの屈曲部より臀部の位置を上にすることが、ズレ予防となる。ベッドによっては、頭がベッド上部柵に当たってしまうことがあり、枕は縦に使うとよい。
- 正確なリクライニング位（体幹角度）を取る。スタートは「いつもやっているリクライニング 30 度」から開始しました。ほぼ全グループで低目の角度でした。30 度は、食物が食道に重力により流れ込む角度であり、誤嚥を予防します。通常 30 度設定が２０度前後となる傾向がみられるため、POTT プログラムではその点をポイントとしています。
- 上肢のサポートと足底接地を確実に実施する。POTT 姿勢でリクライニング位 30 度を取った後、上肢の枕を取り、足底シートを取ると「食べる気がしない」「結構つらい」「ずり落ちる感じがする」等の声がありました。
- 患者の立場になり、想像力を働かせる。頭部や背部の調整にバスタオルを使ってみました。両端をクルクルと巻き込み挿入すると、安定感がでます。

次のセッションは、ナーシングホーム気の里施設長田中靖代先生の講義と演習。自身の体験から考案された“リードスプーン”を使って演習。ポジショニングをしてバナナを食べてもらうという設定。バナナに水を唾液代わりに少量追加することで、口内

を通過しやすくなること等、学ぶ点が多くあり。心にトライされていました。参加者の方々の真剣なまなざしや笑顔、主催者の方々のさりげない気配りも行き届き、あっという間に時間が過ぎました。東京はむろん秋田、宮城から愛媛まで全国から参加があったそうです。食看護を学問として探求されている方々の、熱い思いを感じた日でもありました。２回目に“ポジショニングの技術伝承”を入れていただけたことに、感謝です。

リクライニング位 30 度のデモ

リクライニング位 60 度（自力摂取）

参加者は、年代やや高め、そして元気！。それだけに職場で影響力があり、
POTT プログラムの技術伝承の可能性が大！と期待をしました。

―演習指導　迫田・摂食嚥下障害看護認定看護師 K さん―